

図書館だより



No. 4

平成 25 年 7 月 24 日発行

平年よりも15日早い梅雨明けとなった関東地方。今年の夏も猛暑になると予想されていましたが、予想以上の暑さが続いていますね。暑さ対策を万全にし、夏を楽しみましょう。

今年も8月3日(土)、8月4日(日)に入間川七夕まつりが行われますね。関東三大七夕まつりのひとつとされる入間川七夕まつりには、毎年多くの方が訪れるようですが、みなさんも家族や友だちと出かけるのでしょうか。この七夕まつりは、なんと江戸時代の中頃から行われていたようです。遠い昔から、人々が楽しみ、親しんできた七夕まつりを今年の夏も楽しんでください。

さて、みなさんは明日から夏休みとなりますが、もう夏に読む本は決まりましたか。図書館では、夏の長期貸出を行って、みなさんに長い夏休みを活用して、たくさんの本と出会ってほしいと思っています。まだ夏休み用の本を選んでいない人、「こんな本が読みたい！」と声をかけてくれれば、おすすめの本を紹介しますので、図書館へ足を運んでください。



夏バテしそうなときには*

596-カ『おうちで生ジュース』 川野 妙子 || 著 池田書店

暑くて、食欲がない…、そんな日もしっかりと栄養を摂るためにおすすめしたいのがフレッシュジュース。旬の果物や野菜を使って作る100%ピュアなジュースは栄養もおいしさも満点です。この本で紹介されているレシピはなんと304！レシピを読むだけで「おいしそう！」と思うものや「これは一体どんな味になるんだろう」と興味をそそられるものまで、様々なジュースのレシピが紹介されています。

また、素材別、症状別、シーン別と分かれているので、その日の自分の気分や体調に合わせて、選ぶことができます。猛暑となるこの夏を元気いっぱい楽しむための体力づくりに役立ててみてください。

七夕から始まる恋の話*

913.6-タ『左京区七夕通東入ル』 瀧羽 麻子 || 著 小学館

就職も決まり、試験の目途も立った大学4年生の夏、花は同じ大学の理系男子 龍彦に出会った。同じ大学とはいえ、文学部の花にとって理学部の男子は未知なる存在だったが、龍彦や龍彦の友人らとは不思議と気が合い、共に過ごす時間が増えていく。そして、そっけなくて、生活感がなくて、数学のこととなると何も目に入らなくなる龍彦に恋をする。そんな花の恋のライバルは、もちろん数学。理解できない龍彦の行動に戸惑いながらも、龍彦の隣にいたいとの想いは強くなっていく。

夏の京都を舞台に繰り広げられる恋の物語をお楽しみください。

図書館カレンダー

7月

8月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

開館日 閉館日

開館時間* 8:50~17:00

以上の日程で図書館は夏休み中も開館をしています。読書やDVD鑑賞でまったりと過ごすのもよし、夏休みの宿題や2学期の予習に集中して取り組むのもよし、快適な図書館の空間を有効に活用してください。

伊勢神宮を知ろう

伊勢神宮では今年、第62回目の式年遷宮(しきねんせんぐう)を迎えます。1300年続く式年遷宮とは、20年に1度行われる神宮最大の祭りで、神宮の建物を新しく建て直すとともに場所を遷し、さらに殿内の宝物もすべて新調します。

日本神社界で最高位の神社である伊勢神宮はパワースポットとしてもその名を広く知られており、「いつかは行ってみたい！」と憧れている人も多いのではないのでしょうか。その伊勢神宮の20年に1度の祭りとなると、パワーもいつも以上に増しているはず。今年の伊勢神宮には大注目ですね。

175-タ『伊勢神宮 きちんとおまいり』 JTBパブリッシング

憧れの伊勢神宮へ参拝に行く前に、しておきたいのが、“伊勢神宮をきちんと知ること”です。「そんなの基本中の基本じゃないか」と思われるかもしれませんが、意外とみんなその基本を知らないものなのです。例えば、名前。伊勢神宮の正式名称は“神宮”だと知っていましたか。そうした基本から参拝の仕方や参拝後の楽しみ方まで、たっぷりと伊勢神宮のあれこれを知ることのできる本です。伊勢神宮の奥深さと魅力を再確認できるだけでなく、読んでいると、伊勢神宮の清らかな雰囲気を感じることができます。ちょっと疲れてしまった時に、癒しの本として開いてみるのもおすすめします。

🍷 世界を旅する12ヶ月 ～トルコ～ 🍷



「世界を旅する12ヶ月」第4回目はトルコ共和国です。面積は日本の約2倍。アジアとヨーロッパの文化が出会う共和国で、首都はアナトリア中央部のアンカラです。

観光地として有名なのはイスタンブールのグランドバザールの歴史的建造物やカッパドキアなどの風光明媚な景色です。名産品としては浮かぶのはトルコ絨毯、ケバブやトルコアイスなどは、日本国内でもよく親しまれているトルコの名物

です。日本とは歴史的に友好的な関係にあり、東日本大震災の際にもトルコは日本に対して支援の手を差し伸べてくれています。

東と西のせめぎ合う歴史

913.6-シ『コンスタンティノープルの陥落』 塩野七生 || 著 新潮社

現在イスタンブールと呼ばれるトルコの都市がたどった歴史は複雑です。古くはビュザンティオンと呼ばれ、古代ギリシアの都市国家メガラ植民地として建設されました。その後、東ローマ帝国の首都コンスタンティノープルとなり、西暦330年5月11日の東ローマ帝国の遷都から、オスマンに征服される1453年5月29日までの千年あまりの期間、途中十字軍によりいったん東ローマ帝国は滅亡し、カトリック国家「ラテン帝国」に支配されたりしたもの、長くローマ帝国の首都でした。そして、オスマン帝国に征服されてのち、イスタンブールに呼び名が統一されたのです。

東西の交通の要衝の地であったための過酷な歴史ともいえます。

東ローマ帝国の終わりを体験した人々は、多くの記録を残しました。様々な立場の人々から見た一つの文明の終焉。本書はきっとそれらの記録を踏まえ、歴史を生きる“人間”を描いています。

トルコ最大の都市イスタンブールの魅力

292-オ『イスタンブール路地裏さんぽ』 ダイヤモンド社

トルコ最大の都市イスタンブールは、博物館、教会、宮殿、イスラム教の礼拝堂であるモスク、バザール(市場)、美しい自然など、見どころの尽きない多彩な街です。そのイスタンブールには路地裏がたくさんあります。地図で見ただけでも、「これは歩き甲斐がありそう！」とってしまう。そんな路地裏に一步足を踏み入ると、さらなる魅力がいっぱいに広がります。

この本では、街のあちこちにいるという野良猫ならぬ路地猫のイラストと共に路地裏の見どころ、味わいどころが紹介されています。かわいらしい雑貨やアクセサリーなど、女子の心をくすぐる品物もたくさん載っていて、散歩するだけで楽しくなる街なんだろうなと感じます。「私だったら、ここをこうして歩きたいな」と想像して楽しみながら読んでみてください。

世界三大料理を味わってみよう

673-ア『家庭で作れるトルコ料理』 荻野 恭子 || 著 河出書房新社

フランス料理、中国料理と並んで世界三大料理と呼ばれているトルコ料理。世界三大料理と言われるからには、1度はその味を試したいものですね。だからと言って、今すぐトルコに行くのは難しいですが、トルコの味はこの本があれば、日本にいながら自分の手で作ることができます。

ケバブやピーマンの肉詰め、ルーツにもなっているドルマ、小麦の原産地であるトルコの良質な小麦を使った料理など、見るからにおいしそうなものから、ジャジュック(ヨーグルトときゅうりの飲むサラダ)や焼きライスプリンなど、どんな味がするのか想像ができないものまで豊富なトルコ料理のレシピが紹介されています。

また、所々に食からトルコを見たコラムが載っており、トルコを知るのにも一役買っています。

村上春樹が旅するトルコ

B915.6-ム『雨天炎天』 村上 春樹 || 著 新潮社

村上春樹の21日間トルコ1週の旅。ユーモアたっぷりの文章で読んでいる人の心も旅気分にし、楽しませてくれます。どこまでも親切なトルコの人々、そして、様々な顔を見せてくれるトルコという国、人と土地、その両方を、時に満喫し、時にぶつくさ言いながら、進んでいく。純粋に楽しんでいるなあと感じるシーンより、「村上さんはさっきから憤ってばかりだぞ」と突っ込みたくなるシーンが多いのですが、『僕はこうして随分ひどいことを書いているみたいだけれど、決して悪意で書いているわけではないのだ。僕は僕なりにこの旅を楽しんだのだ』と文中でも断言しているように、その旅は過酷ながらもとても楽しそうです。

同時掲載されている修道院めぐりのギリシャ編もおすすめです。

🍷 図書館司書の「今月はこの本を読みました」 🍷

4月から読んでいる『深夜特急』はとうとうラストの6巻目を読み終わりました。「こう終わるか！！」というクライマックスに、思わずニヤけながら本を閉じました。

今月は**柚木麻子**さんの著書『**ランチのアッコちゃん**』(913.6-ユ 双葉社)を読みました。他の社員が外へ食事に行ってしまう中、ひとり残された職場で持参した弁当を食べる。それがOL澤田美智子のランチタイムだった。失恋し、食欲を失ったある日のランチタイム、誰もが

恐れる職場の上司 アッコ女史から1週間ランチを交換しようと半ば強制的提案を受ける。ドギマギしながらもアッコ女史のために弁当を作り、美智子自身はアッコ女史の代わりに日替わりで指定されるランチの場所へと出かけていく。このランチタイムのたくさんの出会いと刺激が美智子の心を変えていくのですが、その様子は読んでいる人の心も軽やかにしてくれます。

